

# 第 75 回全国高等学校総合体育大会

## スケート競技選手権大会(インターハイ)参加報告

報告者:山口 彩香

### 1. はじめに

令和 8 年 1 月 22 日から 26 日にかけて、栃木県日光市霧降スケートセンターにおいて開催されました「第 75 回全国高等学校総合体育大会スケート競技選手権大会」を観戦してまいりました。私が日光を訪れるのはインカレ参加以来 27 年ぶりであり、当時の記憶を思い起こしながら会場へ向かいました。

### 2. アクセス状況

会場へのアクセスは以下のとおりでございます。

- ・ 自動車利用:日光 IC より約 10~15 分
- ・ 公共交通機関利用:東武日光駅より東武バスに乗車し、「スケートセンター前」下車(1 時間に 1 本程度)

徒歩での移動も可能ではありますが、坂道が続くため、車またはバスの利用が適切であると感じました。

### 3. 駐車場について

会場にはリンクを挟んで上下 2 か所の駐車場が設けられており、いずれも広く十分な駐車スペースが確保されておりました。

- ・ 下の駐車場:長い階段を利用。手すりが整備され安全に移動可能
- ・ 上の駐車場:リンクまでの距離がやや長く、帰路は登り坂となるため負担が大きい



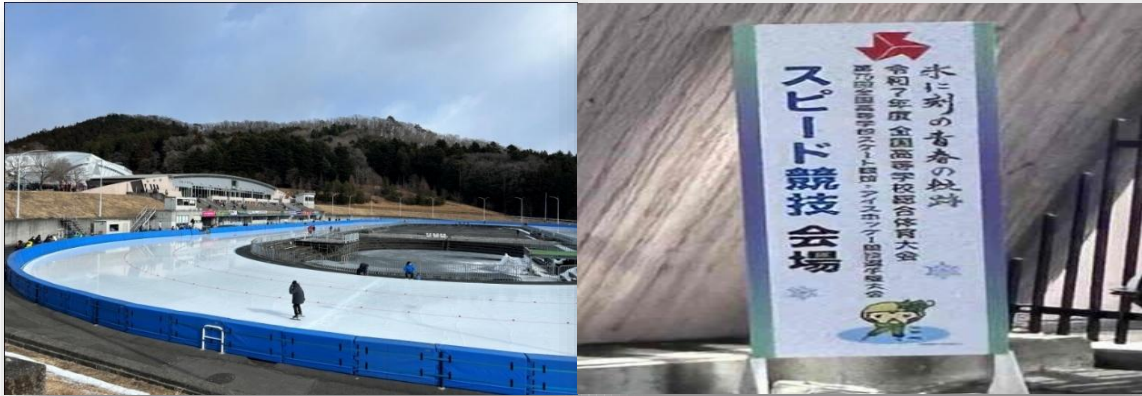
## 4. 会場設備

### (1) 会場構造

建物を中心にスピードリンクとアイスアリーナが隣接し、屋内から両会場を行き来できる構造となっております。

### (2) 観客席

スタンド形式で視認性が良く、周囲に建物がないため開放感があり広く感じました。



### (3) 休憩室

観客席後方には大きな窓に囲まれた休憩室があり、日当たりも良く椅子やテーブルが用意され、競技の合間に休憩や暖をとることができました。

### (4) キッチンカー

会場外には複数のキッチンカーが出店しており、周辺にコンビニ等がない環境において、来場者への利便性向上に大きく寄与していました。温かい飲み物や食べ物を求め、競技の合間には賑わっていました。

### (5) 選手動線

選手控室は地下1階・2階に配置され、地下から出るとすぐホームストレートに出られる構造でした。リンク中地の靴脱着スペースはやや狭い印象でした。



## 5. 競技状況・競技審判

大会期間中は晴天で氷の状態は良好でしたが、強風が競技に大きな影響を及ぼしました。

- ラップスコアラーの鐘が聞こえにくいほどの風
- ベンチや道具が飛ばされる突風
- スタート直前に風のため競技が中断される場面も発生
- ポイントが風邪で飛ばされ競技役員がその都度設置
- 競技役員は強風の中集中して業務をこなしていた
- 連携した動きで競技進行が遅れないように各部署が協力していた

滑走時間や組によって風の影響が大きく異なり、屋外リンク特有の厳しい条件下での競技となりました。風の影響で思うように滑る事が出来なかった選手もいたかと思いません。不公平に感じられますが、屋外リンクのレースならではの感じました。競技役員も大変苦労しているようでしたが、協力して業務をこなしている姿が見受けられました。



## 6. 応援の様子

地元・日光明峰高校の応援団が多数来場し、太鼓や大きな声援で選手を後押ししていました。その様子は高校野球の応援を思わせるほど活気に満ちており、選手にとって大きな励みとなっていたと感じます。

エムウェーブスケートクラブ・市立長野高校の選手たち、そして他の長野県代表選手の皆さんも応援に応えるように全力の滑りを見せていました。その姿は本当に輝いていました。

## 7. エムウェーブでの大会運営への参考事項

今回の大会参加を通じ、エムウェーブでの大会運営・審判活動において参考となる点が多くございました。特に以下の点は、今後の改善に活かせると考えております。

- **観客休憩室の環境整備** 日光会場のように、座席以外で暖をとれるスペースを確保することは、来場者満足度向上に大きく寄与すると感じました。
- **キッチンカー等の飲食提供の充実** 会場周辺に飲食店が少ない場合、キッチンカーの導入は非常に有効であり、エムウェーブでも積極的に検討すべき点と考えます。
- **観客の安全性の確保** エムウェーブは初めて来場する方にとって非常に広く、建物内外で迷いやすいと感じました。そのため、動線の見直しや案内表示の改善は、安全性向上のために特に参考になるポイントだと思います。
- **応援文化の醸成** 地元校による応援の盛り上がりは大会全体の雰囲気を高めていました。エムウェーブ開催時にも、地域の学校や団体との連携を強化し、応援文化を育てる取り組みが有効であると考えます。
- **競技役員育成** 競技役員には状況を瞬時に判断する力が求められます。また、円滑なレース運営のためには役員同士の協力体制も欠かせません。これらはルールへの深い理解に加え、実際の経験や日頃からの審判同士のコミュニケーションによって培われていくものだと思います。

今回の強風下でのレースでは、審判の皆さまが非常に難しい状況の中で判断を迫られ、大変ご苦労されたことと思います。その献身的な対応があつてこそ競技が安全に成立していると改めて感じました。

## 8. まとめ

本大会は、屋外リンクならではの天候の影響を強く受ける大会となりましたが、そのような厳しい環境下でも全力で競技に臨む高校生の姿に深い感動を覚えました。また、会場運営や応援体制など、多くの点で学びがあり、エムウェーブでの大会運営に活かせる事柄が数多く見受けられ大変参考になりました。

今回の経験を今後の審判活動や大会運営に反映し、より良い大会づくりに努めてまいりたいと存じます。最後に、このような貴重な機会を賜りました長野市スケート協会の皆様に、心より御礼申し上げます。